

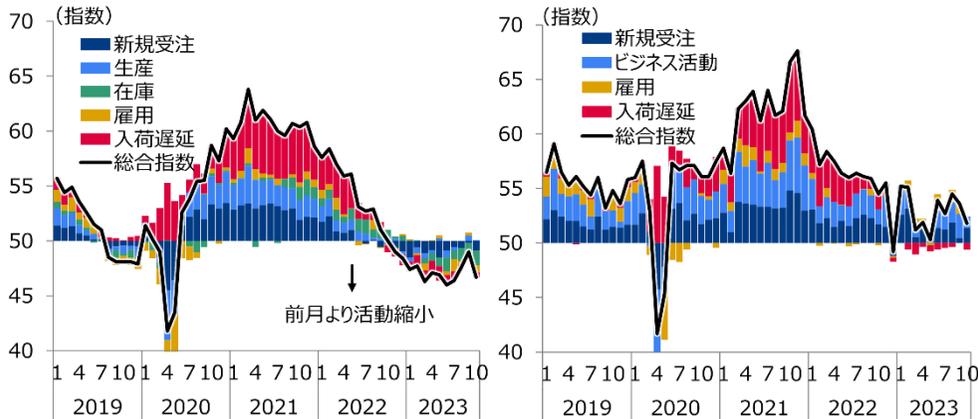
米国

ISM景況指数（2023年10月）

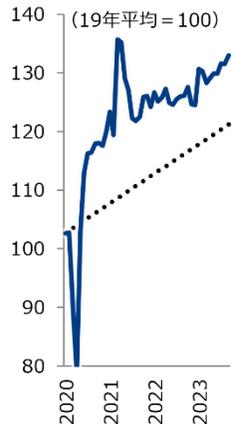
製造業の活動縮小局面は08年金融危機超えに、企業活動軟化続く

政策・経済センター
浅井優汰
03-6858-2717

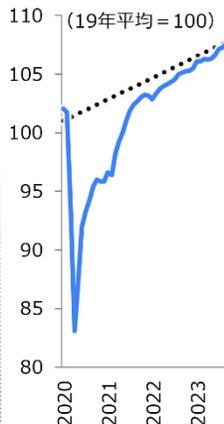
1 ISM景況指数（左：製造業、右：非製造業）



注：調査項目について、前月と比べ「改善・変化なし・悪化」の3択で行った企業アンケート結果を加重平均して算出。
出所：Institute for Supply Management®より三菱総合研究所作成

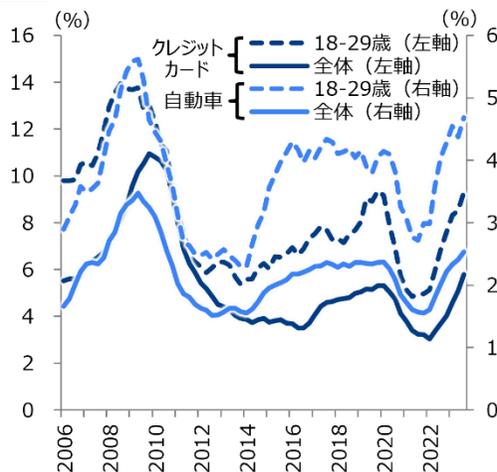
2 個人消費
耐久財

サービス



注：直近は23年9月。破線は15-19年トレンド。
出所：米国商務省より三菱総合研究所作成

3 ローン延滞率



注：90日以上の深刻な延滞に移行した割合。
出所：NY連銀より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 23年10月のISM製造業景況指数は46.7と、前月から低下し、経済活動の拡大・縮小の境目である50を12カ月連続で下回り、下回った期間は08年金融危機時を超えた。非製造業は51.8と前月から▲2pt弱低下した（図表1）。
- 製造業の項目別では、需要の強さを示す新規受注が45.5と13カ月連続で50を下回っているほか、在庫も43.3と低位で推移、需要鈍化が続いている。
- 非製造業の項目別では、企業活動の現況を示すビジネス活動が54.1と前月から▲4pt程度低下した一方、先行きの需要の強さを示す新規受注は55.5と前月から上昇した。活動拡大を示した業種数は18業種中12業種と多く、非製造業の現況は、総合指数の前月差▲2pt弱の低下が示すほどは悪化していない。

基調判断と今後の流れ

- 企業活動の拡大ペースは緩やかに鈍化している。製造業は、底割れを回避しているが、高金利などの影響で活動縮小が長期化している。米GDPの7割を占め、過去の景気循環を左右してきた非製造業は、活動拡大ペースが鈍化している。
- 先行き、製造業は米国内の財消費の伸び悩みによって50近辺で調整局面を続けるとみる。また、非製造業は金融引き締めの影響で消費の伸びが鈍化し、24年半ばにかけて50近辺へ低下するとみる。注目は、個人消費の動向である。
- 製造業には押し上げ・押し下げの両要因がある。世界的な在庫調整の一服、半導体需要の持ち直しなどの外需回復は活動を押し上げる。一方、耐久財消費は、過去トレンドを考慮すると需要の先食いが生じており（図表2）、今後伸びは頭打ちになるとみられる。内需の伸び鈍化によって調整局面は当面続くだろう。
- 非製造業も、サービス消費の伸びの一服で活動拡大ペースは鈍化するとみる。コロナ禍で抑制された旅行などのサービス消費は、直近で過去トレンドに回帰しており、今後消費ペースは鈍化する見込みだ（図表2）。加えて、金融引き締めの影響で、クレジットカードローン延滞率は若年層を中心に急上昇、コロナ禍前を上回る（図表3）。10月に再開された学生ローン返済、コロナ禍で貯まった貯蓄の枯渇も消費の伸びを抑制し、企業活動の拡大ペースは鈍化するだろう。